

2024年10月25日

報道関係 各位

住友不動産株式会社

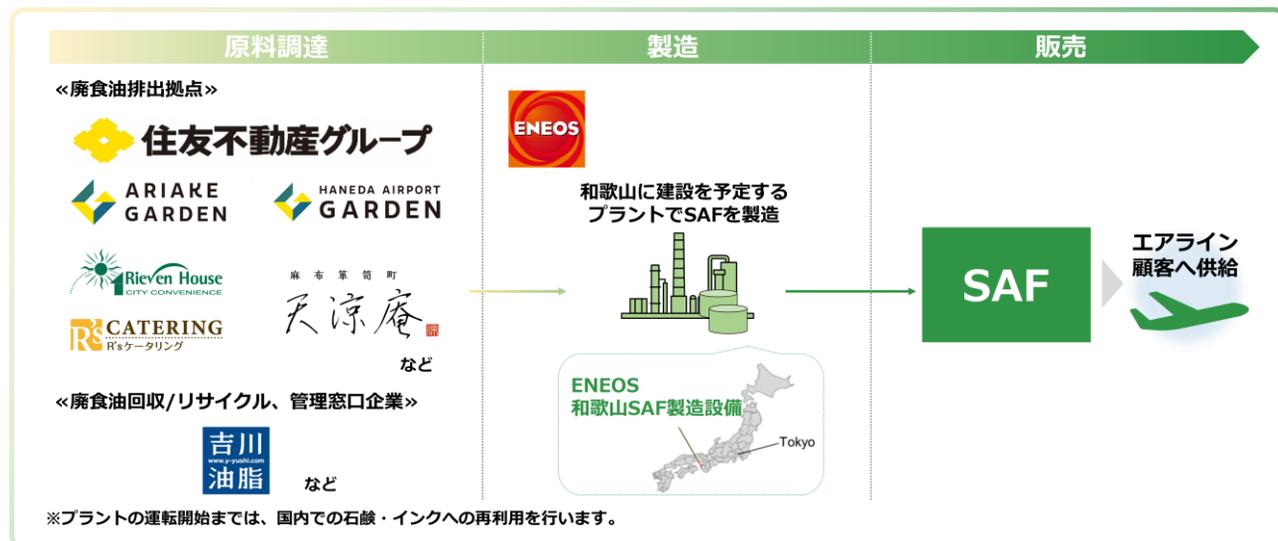
住友不動産グループ×ENEOSによる廃食油の利活用

～持続可能な航空燃料(SAF)原料への 廃食油再活用に関する基本合意書の締結、協業開始～

住友不動産株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:仁島 浩順)及び、住友不動産グループ2社は、ENEOS株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:山口 敦治、以下「ENEOS」と、廃食油を持続可能な航空燃料(以下、「SAF」)の原料として活用する取り組みに関する基本合意書を締結いたしましたので、お知らせいたします。

住友不動産商業マネジメントが運営する大規模複合施設「有明ガーデン」、「羽田エアポートガーデン」および泉レストランが運営するコンビニエンスストア「リーベンハウス」や飲食店「天涼庵」、ケータリングサービスなどから排出される廃食油を回収し、SAFへとリサイクルする仕組みを構築します。

回収した廃食油は、将来的にENEOS和歌山製造所(和歌山県有田市)で事業化を進めるSAFの製造プラント(能力40万キロリットル/年)で原料として使用する予定です。



<協業フローイメージ>

■住友不動産グループの資源循環における取組み

当社は、「よりよい社会資産を創造し、それを後世に残していく」という基本使命の下、各事業を通じた社会課題の解決に取り組んでまいりました。

循環型社会の実現に向けては、特に主力のオフィスビル賃貸事業において、全運営ビルでテナント企業様のご協力も得ながら、ごみの分別促進を図るほか、各ビルで排出する蛍光灯、ペットボトル、缶、乾電池などの適切なリサイクルを推進するなど、廃棄物排出量の削減、リサイクルの推進活動に取り組んでおります。

この他、サントリーグループとの協働による「ペットボトルの水平リサイクル～ボトルtoボトル」をはじめ、アルミ缶や建築資材など昨今では様々な事業者様との協業による取り組みを推進しております。

今後も環境・社会に配慮した、先々まで必要とされる価値の高い社会資産の創造を通じ、より一層、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

参考: 住友不動産 | [住友不動産 | サステナビリティ/ESG \(sumitomo-rd.co.jp\)](https://www.sumitomo-rd.co.jp)



ビル来場者を対象とした啓発イベントも実施

【参考】

■SAF(持続可能な航空燃料)需要への対応

SAFは、「持続可能な航空燃料」(Sustainable Aviation Fuel)の略称で、従来のジェット燃料が原油から精製されるのに対し、廃食油やサトウキビ、都市ごみ、廃プラスチックを用いて生産されます。従来のジェット燃料と比較し、約60～80%のCO₂削減効果があるとされています。

国際的には、2020年以降、国際航空からのCO₂総排出量を増加させない、2050年に炭素排出をネットゼロといった目標が掲げられています。日本国内においては、2030年時点において、2019年度に国内で生産・供給されたジェット燃料の10%相当をSAFに置き換えるという目標が掲げられており、国産SAFの開発及び製造が推進されています。

出典: 国土交通省、経済産業省、国際民間航空機関(ICAO)

■廃食油の回収とSAF生産までの流れ

廃食油は、揚げ物などの調理に使用された食用油の総称で、国内では食品工場や飲食店、スーパー、コンビニ、家庭などから年間約50万トン(2021年度)が排出されています。また、飲食店や工場等から排出される事業系廃食油は、飼料用途等へリサイクルされている一方で、一部は国内で活用されず輸出・廃棄されています。世界では、このような廃食油を活用したSAFの生産が行われており、国内でも回収・活用の取り組みが広がっています。

出典: 全国油脂事業協同組合連合会

本リリースに関する取り組みは、下記のSDGs目標に貢献しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

当社は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。